

# 女系天皇議論は ■生前退位に慎重論 ■静かに受け止め

## 議員 ネットで思い様々

### 皇室典範改正を ■立法府猛省しないと

国会議員がネットに載せた反応(抜粋)

西田昌司氏 (自民)	我々が家や地域を次世代にどうつなぐか。天皇家と同じ問題
馬淵澄夫氏 (民進)	退位検討なら象徴天皇を規定した憲法との整合性も議論を
志位和夫氏 (共産)	一人の方が亡くなるまで仕事を続けるあり方は検討が必要
下地幹郎氏 (維新)	安倍総理は時間の制限も視野に入れ陛下に承えられないといけない
和田政宗氏 (こころ)	拝聴し、有り難さに身体全体が震えた。大御心に沿う形を

生前退位をめぐる天皇陛下のお気持ち表明を受け、国会議員たちがネットで思いの丈をつづっている。生前退位への賛否から、皇位継承を安定させる制度論に踏み込むものも主張まで百家争鳴だ。政府が有識者会議を設置して議論を始めるなか、議員たちの関心はさらに高まりそうだ。

陛下はお気持ち表明の結びで、生前退位への思いとともに「象徴天皇の務めが常に途切れることなく、安定的に続いていくことをひとえに念じ」と語った。

「陛下のご宸襟(しんせき)はおこころを悩ませているのは生前譲位の問題だけではないのでは。国会の対応で力ギを握る巨大与党・自民党。河野太郎氏は先月中旬、メルマガで問いかけた。皇位継承権のある男系男子が、皇太子さまの次の世

代は悠仁さまだけで「皇統は危機」と指摘。「女系の天皇を認めるのか。他に選択肢があるのか」「国民の総意をまとめる議論を始めべきだ」と述べた。

小泉内閣が女性・女系天皇導入へ動いた10年前は、男系の伝統にこだわる保守派が反発。導入が見送られた経緯がある。赤池誠章氏はブログで「当時も(導入に)反対した一人として(今回も)断固反対」と、女系天皇に道を開く議論を牽制した。

政府は陛下一代限りの退位を認める特措法を検討するが、城内実氏は生前退位自体に慎重な姿勢をブログで示す。「前天皇、今上天皇とお二人の象徴の存在で国民に混乱を招かないか」「二階俊博幹事長の言葉も揺れる。女性天皇について先月下旬、「各界で活躍す

る女性が天皇だけ適当でないというのは通らない」と発言。今月初めにテレビ番組で水を向けられた時は答えず、「政府が対応を決めるのが筋。わいわいやるのでなく静かに受け止める」と語った。

野党第1党の民進党。野田佳彦前首相は先月下旬にブログで「政治の不作為が最大の原因。猛省しています」と記した。「陛下の年齢を考えると時間をかけず退位についても」その場しのぎの特例法でなく皇室典範改正で」と踏み込む。

民進党代表選では蓮舫氏も討論会で「立法府が猛省しないと」「議長の下で全党が参加し早急な議論が必要」と強調。代表になり、後見役の野田氏を幹事長に据えた新体制で、国会での出方が注目される。

一方、野党共闘を進める生活の党の小沢一郎代表は党のサイトで「天皇の地位に関する問題で政治的立場にある者が軽々にコメントすべきでない」と記した。

(藤田直央)